第3回益城町立幼稚園・保育所あり方検討委員会（要旨）

日時 令和4年（2022年）1月27日（木）9:57～11:41

場所 仮設庁舎別棟 2階 議会本会議場

出席者 委員会：今吉会長、稲田委員、吉村委員、中村委員、井寺委員、森田委員、津田委員、渡邊委員、大庭委員、宮尾委員、糸数委員、大杉委員、中路委員

事務局：益城町こども未来課 水口課長、村上係長、松本主査、総務課 福住主査（記）

欠席者 宮本委員

◆ 概要

◇ 開会

会長あいさつ

- オミクロン株に気を付けながら参加いただきたい。

◇ 議事の公開について（審議）

- 原則公開だがオミクロン株が蔓延しており、傍聴者なしで開催する。前回同様、後日、議事要旨を町ホームページにて公表したい。

⇒ 全会一致で了承。

◇ 議事

(1) 令和4年度新規申込件数について（報告）

● 事務局）資料1-1の内容を説明

昨年12月14日から17日まで令和4年度の町立幼稚園の新規申込を受け付け、新規の人数は益城幼稚園で3歳児14名、4歳児2名の16名、第二幼稚園で、3歳児14名、4歳児1名の15名。両園の在園児はそのまま進級をされる予定で、令和4年度の利用予定人数は、益城幼稚園で3歳児14名、4歳児30名、5歳児28名の72名、第二幼稚園で、3歳児14名、4歳児25名、5歳児25名の64名。両園併せ、3歳児28名、4歳児55名、5歳児53名の136名の予定。

● 事務局）資料1-2の内容を説明

第2回で示した資料に令和4年度入園予定者数を追加。両園定員330人と比較すると毎年受け入れ人数が減っている状況で、令和4年度に初めて両園の受入人数が150人を下回る結果となった。

● 会長）利用予定者数が出ているが、保育園希望者が入れない場合、幼稚園に入ることはあるか。

- 事務局）3歳児で保育園希望者の中から待機児童となり、幼稚園に入園する場合はありうる。逆に保育所に幼稚園と同時申し込みをしている方もいるため、今回の予定人数から増減する可能性はある。

● 委員）4歳児の増は転入か。

- 事務局) 転入者もいるが、もともと益城町にお住いの令和 4 年度の 4 歳児が入園申し込みをされた方もいる。
- 委員) 保育園に入れなかったらという発言があったが、保育所と幼稚園で受け入れ条件が異なると思う。実際に幼稚園を利用することは可能なのか。
 - 事務局) 保育園の入園申し込みは求職活動でも受け付けている。待機児童となり、幼稚園となった場合は求職活動を伸ばして幼稚園に通う場合がある。
 - 委員) 幼稚園は 1 6 時 3 0 分まで預かり保育を行っているため、預かり保育時間の中で就労されている方でも幼稚園を利用することはできる。
- 委員) どうしてこんなに 3 歳児申込が少ないのか。事務局で分析したことはあるのか？
 - 事務局) 昨年 9 月に令和 3 年 4 月 1 日時点の年齢別人口で保育園、幼稚園の利用者を調査した。令和 3 年度益城町の 2 歳児人口は 289 名。そのうち 8 割くらいの 232 名の児童が既に認可保育所や企業主導型保育施設を利用している。また、4 名の方は町外の幼稚園を利用している。何も施設を利用していない児童が 53 名という結果だった。

今回の 28 名と令和 4 年度に町内外の私立幼稚園を利用する園児が 10 名となっている。人口は変化するため、一概には言えないが、2 歳児の段階で多くの園児が保育施設を利用しているため、幼稚園の利用申込者が必然的に減少していると思われる。この現象は両親共働き世帯が多くなり、保育時間が長い保育施設でなければならない人が増えているためだと推測される。
 - 会長) 保育所の方が小さいころから入ることができる。また共働き世帯の増加が要因であると考えられる。
- 委員) 益城幼稚園、第二幼稚園にしても、令和 2 年度から極端に少なくなったのは認可保育園が増えたからということも考えられる。また、若い世帯が家を建てていること、共働き世帯であることが保育所希望に繋がっているものと認識した。広崎地区では、区画整理が進んでおり、住宅地も増え、令和 5 年度には町外からの転入者も増える見込み。住宅を建設される世帯が多くなるため、必然的に共働き世帯が増え、今後さらに保育園希望者が増えることが予測される。
- 委員) 資料 1 - 2。この減少数がこのまま続いていくのは心配である。
- 会長) 昨今の状況からみると今後も共働き世帯は増えていくものと思われる。子育てをしながら働いていくとなると、受け皿をどうするのかという議論が必要。熊本市では認定こども園も増えている。また、企業設置型保育園も増加している。
- 会長) 議題 1 については、今後心配となる状況が委員間で共有できたものと思われる。

(2) 在園児及び令和 4 年度新規申込保護者アンケート結果について (報告)

- 事務局) 資料 2-1、2-2 をもとに内容を説明。
- 委員) 資料 2-2 の 3 ページ「その他」の保護者意見に、そもそもどのような幼稚園かわからないという記述がある。私も同じ思いを持っていた。現状 HP や SNS での情報発信はしてい

るのか。

- 事務局) 発信が少ないことは改善点として認識している。園ごとのホームページを立ち上げることは費用面で厳しい。ただし、今年度から町ホームページの中に各園のページをリニューアルし、その後、写真等の情報を各園で対応している。
- 委員) 益城幼稚園ではホームページの更新を行い、写真の公開をしている。まだまだ改善が必要な状況。SNS の活用についてはセキュリティやプライバシー面で不安がある。情報発信方法については模索中である。
- 委員) 園外への情報発信はなかなかできていないが、プライバシー等に配慮した差し支わりのない写真を掲載している。園施設内には、掲示板にて、園の活動写真を掲示する等、保護者への情報提供を積極的に行っている。
- 会長) セキュリティの問題など、発信するうえで解決すべき課題があると認識。見学したい保護者への対応はどうしているか。
- 委員) 随時受け入れている。特にこの時期の見学の申し込みは多い。また、県外からの転入者からの電話相談もある。
- 事務局) 役場に問い合わせがあった場合も予約制で見学を薦めている。
- 会長) アンケート結果から園への評価は高いと感じた。今後の方向性については、当事者としてイメージがついている方とない方がいるように感じる。今後幼稚園教育に関して、どのようなニーズを持っているのか、そういった意見を今回のアンケートで読み取ることができなかった。幼稚園の改善点については給食導入、駐車場改善といった意見が多かった。
- 委員) 資料 2-1 の質問 9 について。園庭の広さに関し、心配な意見が多かったが、益城幼稚園は基準に合わせた園舎と園庭の広さを持っているのか？統合した場合も対応可能なのか？
 - 事務局) もともと定員 180 名の園児を受け入れる園として建設されており、十分な広さの基準を満たしている。
 - 会長) どちらも 50%未満の使用率であれば、問題ないと思われる。
- 委員) 園の先生とアンケート結果について議論した。子どもの育ちを考えると 2 園あった方がよい。他の園で断られた児童の最後の受け皿として機能している面もある。しかし、支援児が増えた場合受け入れられるか。益城幼稚園だけでも手帳をお持ちのお子さんが多数いる。第二幼稚園でも同様の状況だと思う。統合した場合、今のように対応できるか不安。また、住宅地が増えていることも懸念点。統合を中心とした話になっているが、他に園でできることはないかという議論もあった。コロナ禍でできていないが、プレ幼稚園などは可能と考えている。そのような意見をこの委員会でも議論できればと考えている。
- 会長) 統合が一人走りしたと感じた委員の方もいたと思う。両幼稚園の利用者減に対し、統合を含めどうしていくか議論するのがこの委員会の役割だと考えている。
- 会長) 支援児が増えているという意見があるが、支援児については教育委員会との連携も必要になる。小学生以上では特別支援学級、学校という仕組みがあるが、幼児に対しては義務教育ではないため、まだまだ制度が整っていない。支援が必要な方には別の場所を使

いながら発達支援のケアを行っていくなど、様々な方法の検討が必要。

- 委員) 本委員会が統合ありきという認識を持っている。アンケートも同様。町として子育てに力を入れるのは今だと思う。予算が足りないから、ではなく、予算をどこからか捻出するという議論はできないものか。
 - 会長) 予算のことについては委員会の趣旨と異なってくる。
- 委員) 今回のアンケートは各保護者が一所懸命回答いただいている。町の議員や町長が聞いてくれていると願いも込めて回答している。あり方の検討委員会なので、統合しないためにどうすればよいかという議論ができればと思う。
 - 会長) 統合しないためにどうすればよいかという議論があってもよい。統合ありきという議論だけではなく、いろいろな可能性も模索していく必要がある。
- 委員) アンケートには各保護者の意見が記されている。最終決断は町が行うことになるが、保護者の気持ちを汲み取っていただきたい。統合する、しないは別として、導入が可能と思われる満3歳児の受け入れ等、各改善策が実際に導入可能なのかという意見も事務局にお尋ねしたい。
 - 委員) 保育園のこともお知らせしたい。町全体の課題として、待機児童をどう減らしていくかということを第一に全保育所で取り組んでいる。役場ともコミュニケーションを取りながら様々な改善を行ってきた。もっと幼稚園は待機児童の問題を考えるべき。アンケートの中に年少のクラスに4人の先生を入れてもらっているという記載があるが、保育所では考えられない人数。町のこどもは平等に育つべき。予算は無限にあるわけではなく、町が破産してしまえば元も子もない。幼稚園利用者が減少したことは、無償化も原因であることは保育所職員としても認識している。保育所に見学しに来る保護者にも幼稚園の紹介や預かり保育事業に関しても説明しているが、就労時間等の制限でニーズが合わなくなっている。
 - 会長) 学校教育の人数と保育の人数は異なるので考え方も変わってくるものもあると思う。
 - 委員) 年少クラスでは20人以上子どもがいる場合、担任のほかに1人補助の先生を配置している。現在の年少クラスの支援児さんに2人の加配をつけているため、必ずしも年少クラスに4人の先生を配置しているというわけではない。
 - 事務局) 両親が共働きであって、幼稚園の時間帯ではそもそも利用ができない状況が増えている。先ほどから、「幼稚園が2園必要」という意見をいただいているが、それがなぜかという意見をいただきたい。このままいくと町立幼稚園自体を維持できるかということも危惧している。そのような意識もあって今回、委員会を設置し、在園者アンケートを実施させていただいた。満3歳児受け入れについては、以前、待機児童対策の一環として、役場から両幼稚園に提案したところ反応が何もなかった。今回の委員会で、今後は議論の余地があるものと認識した。給食についても学校給食と同じような形でよいのかななどの意見もお聞きしたい。
- 委員) 新規申込者が少ないことをみて2園の存続は難しい印象を持った。益城町の財政

状況について、事前に調べてみた。町は公債費の割合が高く、償還払いも既に始まっている。また、これまであった基金も底をつくと公表され、復旧復興の影響が大きいことがうかがえる。公債費が高いと、今後の借金を今の子どもたちの世代が返していくことになる。このことを考えると、統合という目の前の課題を見ないようにしているようにも思える。

- 会長) 今の利用者だけでなく、中長期的視点が必要だという意見です。
- 委員) 統合の話がちらついたことも入園申込みが少なかったことに影響したのではないか。先のことを考えると保育園に入れた方が不安は少ないと考え、保育園に入りたいという方もいたのではないか。現在委員会で議論していることを保護者に伝える場が必要ではないか。
- 会長) 統廃合をすすすぐ行くものではない。卒園する方は統合はいつでも構わないという方もいると思う。幼稚園の入園希望者が少ないということに対する、委員会としての意見も求められている。
- 委員) 入園者を増やすために努力することが第一ではないか。統合は最終手段であって、ある程度期限を区切って統合に踏み切るといったことが必要ではないかと思う。
- 会長) 人口減少の中、また利用者負担の観点からも幼稚園入園者数を増やすことは相当にハードルが高い。

◇ その他

- 会長) 本日が3回目の委員会。予定では残り2回委員会を開催。次回は令和4年度の入園数やアンケート結果を踏まえ、ある程度委員会としてのまとめを行う必要がある。事務局としてどのように進める予定にしているのか？
- 事務局) 第4回目の委員会では、あり方検討委員会の答申の素案を議論いただきたい。素案については事務局だけで作り上げるのではなく、委員会メンバーから作業部会を組織し、素案作りを行いたい。委員の方数名に協力いただきたい。メンバーとしては、両園の後援会代表の方1名と幼稚園長1名、両学識経験者、議員3名のうち1名のご参加をお願いしたい。
 - 会長) 5月に向けた叩き台作りを作業部会でお願いしたい。
- 事務局) 5月に向け、作業部会を2～3月に実施し、第4回委員会を開催したい。日程については改めてお知らせする。

◇ 閉会

以上